

# 武士道

Pride of Japan

第6号  
BUSHIDO

「今の日本はこのままでいいのだろうか」



# 武士道格言

その3「日新公いろは歌」

## く お の い

**亥に臥して寅には起くと  
夕露の身を徒にあらせじがため**  
昔から夜は十時に寝て、朝の四時には起きると、一般に言われてきましたが、二回限りの人生です。限りある時間をぐうたらに過ごすことなく、自分を磨くために有効にしたいものです。

**逃るまじ所を予て思いき切れ  
時に至りて涼しかるべし**  
どうしても逃れることができない時や場というものがあ  
るから、何事も事前に準備をしておくことです。そうす  
れば時が来ても、何等あわてることなく落ち着いて対処す  
ることができます。

**思ほえず違うものなり  
身の上の欲をはなれて義を守れ人**  
人間は時として、ついつつかりと人の道から外れることが  
あります。正常とは違う道に迷い込んでしまうのです。そ  
のようなときは、自分自身のためだけの私利私欲から離  
れるように努めましょう。もつと人のため世のためになる  
ことを基準として自分の心を磨くことです。

**苦しくと直道を行け九曲折の  
末は鞍馬のさかさまの世ぞ**  
たとえどんなに辛いこと、悲しいこと、苦しいことがあつて  
も、決して人や世間に迷惑をかけてはいけません。正しい  
一本道をしつかり歩みましょう。鞍馬山の崖に通じる曲が  
りくねった山道のように、悪事を行っていくとその結果は必  
ず、まじかやまの間のどん底に落ちつくものでしょう。

## ふ け ま や

**和らぐと怒るをいわば弓と筆  
鳥に二つの翼とを知れ**  
和らぐことと怒ることとは、文と武のようなものです。丁  
度、鳥に二つの翼があるように、学問、芸術に優れた者は、  
同時に武芸にも秀でていくことを覚えておきましょう。

**万能も一心とあり仕うるに  
身ばし頼むな思案堪忍**  
いかに様々なことに巧みであつても、そこに真心がともな  
わなければ、何の意味もありません。自分の能力に頼つて自  
慢することのないように、よく考えて謙虚でいることです。

**賢不肖用い捨つると言う人も  
必ずならば殊勝なるべし**  
能力のある賢い人を採用し、能力の無い愚かな人を退ける  
といいますが、間違いなくそれが本当にできれば、大変結  
構なことだといえます。ところが油断すれば、つい私情が  
からんでしまうものです。だから人事は十分に心にとめて  
おくことです。

**無勢とて敵を侮ることなかれ  
多勢を見ても恐るべからず**  
戦うとき、相手の人数が少ないからといって、軽くみて馬鹿  
にしてはいけません。また人数が多いからといって恐れる  
こともありません。勝敗は単純に人数で決まるものではな  
いからです。

「日新公いろは歌」とは

「島津家中興の祖」、「日新公(じっしんこう)」と称された、島津 忠良(ただよし)(1492~1568年)が、5年余の歳月をかけ完成させたという47首のいろは歌。神道・儒教・仏教の三つの教えを基に、人としての生きる道、特に武士として守らねばならない道を説いたものである。薩摩藩の「郷中(ごじゅう)教育」の基本の精神となったといわれる。孫にあたる島津義弘も多大な影響を受け、その後も薩摩武士、士道教育の教典となったこの「日新公いろは歌」は、現代の私たちにも通じる多くの示唆を含んでいます。

解説文引用文献:清水榮一著『島津日新公の教え』(PHP研究所刊)

# グラウンド・ゼロ

武士道協会理事

田中成明



●プロフィール  
アメリカ大日寺住職・国際マンダラ協会会長  
1947年、埼玉生まれ。1968年、東京金剛寺・高橋不動尊にて出家得度。1970年、京都大覚寺伝灯学院卒。1970年、国際仏教興隆協会よりインドに派遣される。1975年3月帰国。1975～1978年薬師寺で説法。1978～2000年まで欧米人に仏教を伝道。2001年より早稲田大学オーブンカレッジ講師。著書に「ニューヨーク曼荼羅」「神通力」「親孝行など多数」。

ニューヨークの「グラウンド・ゼロ」に立った。

キャナル通にある中国寺を参拝し、中華街の喧騒を抜け、世界貿易センタービルが建っていた跡地で、アメリカ人の弟子たちと一緒に般若心経を唱えた。

二〇〇一年九月十一日、ボストン発UA便がテロリストにハイジャックされ、旅客機は乗客を道連れにしビルに突っ込み、世界貿易センタービルは無惨にも崩壊した。私は今もその光景を夢に見る。なぜなら、一九七八年九月九日からニューヨークのウエストビレッジに定住し、いつも世界貿易センターを拝見、ビル内のレストランで食事をして買った。このビルで働いていて犠牲となった知人もいた。

十周年の記念法会が九月十一日の朝から始まり、跡地に立って祈る人々は多かったが、「グラウンド・ゼロ」の空間は、死者の魂が浮遊しているように思えた。犠牲者は突然に死に見舞われ、驚き恐怖しながらビルとともに死亡したので、十

年経っても癒されていない。

私は「グラウンド・ゼロ」の片隅で、般若心経を唱えながら、無力感に苛まれていた。しかし、祈りの声は小さいながらも、死者の怨念を少しでも慰撫したいと思っていた。死者の無念さと遺族の悲しみと憎しみは、十年経っても消えはしない。が、この憎悪と怨念を乗り越えていかないかぎり、死者の魂は救われず、遺族の苦しみも救われない。

仏教の開祖である釈尊は、法句経(ダンマ・パダ)第五番で、

「実にこの世においては

怨みに報いるに

怨みを以ってしたならば

ついに怨みの息むことがない。

怨みを捨ててこそ息む。

これは永遠の真理である」

と説いている。

武士のカーストに生まれ育った釈尊は、幾度も戦場で悲惨な死を体験し、やがて出家した。殺したくない、殺されたくない、これは人類共通の願いである。

しかし、インドでは、ヒンズー教とイスラム教が長年抗争し、イスラエルでは、ユダヤ教とイスラム教が殺しあっている。イラクでは、シーア派とスンニ派、キリスト教もカトリックとプロテスタントが抗争をしてきた。

差別と貧困と争いの原因に宗教があり、宗教家の偏見がある。このリーダーたちが、憎しみの連鎖を勇氣と智慧で断ち切らないかぎり、怨みの息むことがない。

合掌





# 日本の歴史・伝統・文化を守りたい

武士道協会副理事長・参議院議員 山谷えり子



大学生のころ、アメリカ人の先生から「I

be international, be national（国際人になりた

ければ、まず日本人になりなさい）」と言われ、

合気道や長唄、日本舞踊を習っていました。あ

れから三十余年、一男二女の三人の子育ても子

供たちの成人とともに一段落したので、数年前

より合気道を再開いたしました。合気道は、敵

と戦い破る術ではありません。和合、調和の武

道です。相手が攻撃してきた「氣」をふところ

に引き込み、自分の氣と合わせて方向を変え、

相手を淨めて返す（倒す）というものです。毎週

のお稽古では、静かで控えめで流れるように美

しい人々の動きに見とれ、改めて日本人のつつ

ましく凛と礼節あふれる動作の美を知らされる

ような氣がしています。そこには、不平不満を

いわない忍耐と不屈の精神を養うといった武士

道精神が宿っているのです。

その崇高なる時空間をすべての子供たちが体

験できるようにと、六十年ぶりに改正された

「教育基本法」では、伝統文化を大切にする教育

や道徳教育の充実が図られ、武道の授業も中学

男女必修になりました。品格ある生き方には

「歴史と文化のタテ糸」が重要です。単に知識を

蓄えるだけでなく、武道の動きや「道」を求め

る精神性、礼に始まり礼に終わるといふ相手を

尊重する心、平和を願う心を育ててほしいと思

います。

武道の深い呼吸法やすり足を習うことを通じ

て、ご先祖様たちが持っていた身体感覚、身体

文化を呼び覚ましてほしいと思います。農耕民

族、天地人和の心をもったご先祖様の遺伝子

は、私たちの身体と魂の中に眠っています。遺

伝子がスイッチオンされれば、底力や明朗さも

出てくるでしょう。

武道は柔道、剣道、相撲の三種目が学習指導

要領に明記され、合気道や空手道、弓道、少林

寺拳法、なぎなた、銃剣道も地域の実情に応じ  
てすすめています。

根っこ土壌は大切です。それを知らなくて

は大きな成長はできません。誇りも喜びも意欲

も育ちません。自分たちは、こんな素晴らしい

国、こんな素晴らしいご先祖様がつむいできた

歴史の上に、いま今日、生をいただいでこれか

ら先またバトンを渡していくのだという、この

感覚が大きな力と広い心を育てます。自尊心が

あれば、困難に耐え、優しい心をもって人に接

し、働きかけることができます。

自国の素晴らしさを知ることにより、他国の

素晴らしさに気づくようになり、それぞれを敬

愛し、理解する心を深めます。自分のふるさと

を知ることにより、世界中のふるさとの魅力に

気づきます。

自尊心があれば、いろいろ価値の見分けもつ

くと思います。出世しても、その道にはずれた

らそれはよくないことですし、お金も正しい儲け方と使い方をすればいいのですが、そうでなければそれは自尊心が許さないことになります。

新渡戸稲造の『武士道』によると、武士の教育において第一に重んじられたのは、品格の形成であり、武士道の枠組みを支える三つの柱は「智」「仁」「勇」とされ、それはすなわち「知恵」「仁愛」「勇氣」を意味しているとされています。

父は幼い私によく「論語」を使って生き方を教えてくれました。「富と貴きは、是れ人の欲する所なり。其の道を以て是れを得ざれば、處らざるなり」。富と地位は正しい道を歩みながら得なければダメである。「徳は孤ならず、必ず隣あり」。徳のある行いをしていけば、孤立しているように見えても必ず人が集まってくる。「威ありて猛からず」。威厳というのは落ち着きであり、たとえて言えば強い犬はあまり吠えない。これが自信のある落ち着きで、弱い犬ほどキャンキャンと吠える。

また、新渡戸の『武士道』では、名誉という感覚には、人格の尊厳と明白なる価値の自覚が含まれており、「人としてもっとも大切なもの、これがなければ野獣に等しい」という思いは当然のこととして高潔さに対する屈辱を恥とするような感受性を育てた。そして、この恥の感覚、

すなわち廉恥心はサムライが少年時代から最初に教えられる徳の一つであった、とされている。翻って現在のわが国においては、『恥』という漢字は中学生で教える常用漢字の一つであり、小学校では教えられることのない漢字なのです。驚いた私はすぐに文部科学省の役人に質問をしたところ、「小学校では難しいので、中学校で教えることとなっている」との回答でした。小学校低学年で習う「耳」と「心」の組み合わせである『恥』。この漢字を知らぬ子供たちに、徳を教えることは容易いことではないと考えます。

さらに最近では尖閣における中国漁船衝突事件や、北方領土へのロシア大統領訪問などわが国の領土領海が危ぶまれる事態が続いています。私たちにとって国土とは、金を採掘し穀物を収穫する土地以上のもの、それは祖先の霊が宿る神聖な地であります。ドイツの法学者イエーリングは「隣国によって一平方マイルの領土を奪われながら膺懲（ようちよう）の挙に出ない国は、そのほかの領土をも奪われていき、ついにはまったく領土を失って国家として存在することをやめてしまうであろう」と残しています。幕末から明治にかけて来日した多くの外国人は、日本の国柄、人々の品位に驚きの声をあげていました。イギリスの詩人エドウィン・アーノル

ドは、「地上で天国あるいは極楽に最も近づいている国。その景色は優美で美術は絶妙、神のように優しい性質はさらに美しく、魅力的な態度。礼儀正しさは謙虚であるが卑屈に墮することなく、精巧であるが飾ることもない。これこそ日本を、あらゆる他国より一段と高い地位におくものである」と言いました。

このすばらしいわが国の歴史・伝統・文化を守るため、私も政治家として、武士道にある「不惜身命」の気構えでつとめてまいりたいと思います。

#### ●プロフィール

武士道協会副理事長。昭和25年9月19日東京都武蔵野市生まれ。聖心女子大学文学部卒業。出版社勤務を経て、ラジオ・雑誌・新聞の特派記者として渡米。サンケイリビング新聞記者、産経新聞生活面記者、テレビキャスター、エッセイスト、サンケイリビング新聞編集長、内閣府大臣政務官（小泉内閣）、内閣総理大臣補佐官（教育再生担当）（安倍内閣、福田内閣）、自由民主党女性局長、自由民主党拉致問題対策特命委員会事務局長、参議院環境委員長を歴任。現在は、自由民主党シャドウ・キャビネット、拉致問題担当副大臣、参議院内閣委員会理事、参議院予算委員会委員。日本ベンクラブ会員、日本記者クラブ会員、日本外国特派員協会メンバー。主な著書『日本よ、永遠なれ』『人生について、父から学んだ大切なこと』『ねえ、おかあさん』他多数。



# 武士道対談

その②

菊池三郎(財)原子力研究バックエンド推進センター理事長及び武田能行元自衛官(陸将補)と、本多百代武士道協会常務理事兼事務局長との間で、国家の在り方として、エネルギー(原子力)、国防(自衛隊)、道徳(武士道)というビッグ3にメスを入れた議論がなされました。

**本多** 今の日本国民が敏感に反応するものとして、原子力、戦闘力、修身がビッグ3として挙げられると存じます。この三者を誤解なく理解したならば、停電も、殺人も、自殺も、国を攻められたりすることもなく、安心して暮らせる世の中にすることも可能です。使い方を誤れば戦争や洗脳などと悼ましい世の中になってしまいますが、正しい使い方をするには、マスコミからの情報だけでなく、現場の生の声を聴くことが大切と存じ

ます。そこで、本日は岩手県出身で、ミスタープルトニウムと呼ばれ武士道学校の講師でもある菊池さんと、愛知県出身で、自衛隊関連団体の武田さんにお話をお伺いしたく存じます。さっそくですが、なぜその道を目指されたのでしょうか。

**菊池** 岩手県は尚武の気質やお金に恬淡とした独自の土地柄が背景にあったことから、幕末の南部藩から始まり明治、大正、昭和と多くの軍人や政治家が輩出された地です。私は高校三年生の時これからはエネルギー問題が、とりわけウランの扱いが国にとり重要な政策になると考え大学の原子力専門学科を専攻したことがこの道のきっかけでした。当時の大学では原子力の専門学科は東大と京大にできたばかりでもありました。

**武田** 私は愛知県豊川市で生まれ育ちました。豊川市は戦前は旧海軍工廠(零戦の機銃弾等を生産する国営の軍需工場)があったところで、戦後は陸上自衛隊が駐屯しておりました。一九五九年の伊勢湾台風では、五〇〇〇人以上の住民が亡くなりましたが、

その際、大洪水の中で私たち避難者の救助に駆けつけてくれた自衛隊員の活躍が中学一年生の目に強く焼き付いておりました。高校生になって、将来の進路を選択するにあたり、この体験をもとに自分も社会の役に立つ仕事、他人から喜んでもらえる仕事になりたいと思わず防衛大を選びました。そして陸上自衛隊に進み、国の防衛という仕事に人生をかけることになったのです。



**本多** 日本から世界を見てというか、グローバル化した世界という視点から日本を取り巻く現状や今後についてのご意見をお伺いしたいのですが。

**菊池** 民主党政権では東アジア共同体構想が打ち上げられましたが、今の中国の存在からして日本のパワーでは東アジアで主導権をとることは至難の業であろうと思います。やはり米国

とのアライアンスをベースにやっていくのが現実的でありましょう。

#### 武田

現実の国際的秩序は何で保たれているのかと言えば、究極のところは、パワーポリテックであることは昔も今も変わらないと思っています。国家間の発言力・影響力の根源は軍事力にあり、これを実際に使う、使わないはともかくとして、軍事力が国家の外交力（国家の意思を相手に押し付ける力）・国際政治力（国際社会の中で国益を擁護する力）の裏付け

になっていくことは間違いありません。このことは戦後の日米関係を冷静に見れば誰でもわかるはずで、東アジア特に朝鮮半島は、白村江の戦い、元<sup>げん</sup>の日本侵攻、秀吉の朝鮮出兵、日清戦争、日露戦争、朝鮮戦争



その後現在の南北分断対立まで一貫して戦争と抗争の歴史です。なぜなら朝鮮半島は大陸で興った巨大パワーが海洋を求め南下し、海洋で興っ

た巨大パワーが大陸に進出する際の通り道で、こうしたきわどい地勢学的位置に日本があることを考えると、今後ますます強大となる十三億人の中国の経済力と軍事力に対して、アメリカの後ろ盾なしでは、日本は何も言えない状態になるのではと危惧しています。

#### 菊池

私はかつてフランスからのブルトニウム輸送に二回、責任者として携わった経緯があります。輸送の際、一番恐れるのはテロリストに襲われブルトニウムが奪われることです。どうやって安全に日本に運び込むのか。

この時、まさに国と国との交渉や駆け引き等が私に国家というもの強く認識させました。一回目は、外国の海・空軍の監視・保護の下、このプロジェクトを無事成功裏に終えることができました。二回目の時は海上保安庁最大の艦船「敷島」が護衛の任務を果たし、当時、大きく新聞紙上に取り上げられました。日本は海上自衛隊と海上保安庁は任務も違ってはいますが、米国では沿岸警備隊は海軍の一つです。私見ながら日本では軍事力の扱いは必要以上に慎重

で、こうした点でも大きな国益を損なっていると感じています。

#### 本多

お二方の話を聞いて本当になるほど得心しました。武士道を見直すきっかけになったのは、四十歳前後の男性から日本は米国の一つの州にしろもらった方が良く真剣に提案されたことから始まっています。また、憲法九条にしても、本質を議論することなく、一点だけの視野で物事を語っている著名人や識者と呼ばれている方や、「洗脳されているのではないか」という発言を繰り返す政治家や評論家の方もいます。しかしよく考えてみると、この評論家も戦後教育を鵜呑みにしてきた被害者の一人かもしれない。私は国歌「君が代」ですら学校でまともに教えるもらっていません。この国には何か大きな欠陥があるのではと思わざるを得ません。

#### 武田

最近、日本近海において中国の海軍が活発に動いています。これらの動きは、中国海軍が力を持ち自信をつけてきたことの表れですが、日本は、こうした現状の秩序（パワーバランス





ス)を変更しようとする行為に厳しく抗議すべきです。黙って見過ごせば、既定の事実となつてしまします。これからの東アジアは、中国の台頭、北朝鮮の衰退、アメリカの国力低下、日米関係の空洞化等の諸要因でパワーバランスがどう転ぶかわからないという極めて微妙な状況にあると思います。政治家もマスコミも一般国民も目を開いて国際政治の現実を直視し、国家、国益という概念を持つてほしいと思います。

**本多** 日本は今後どのようにしたら良くなつていくのでしょうか。

**菊池** 一つは何と言っても教育の立て直しです。そこから国というものを考え直すことではないでしょうか。徴兵制とまで言うつもりはありませんが、日本人の精神構造の再構築を我々は早急に考えるべきでないでしょうか。

**武田** 戦前は、尋常小学校というのがあって六歳から十二歳の子供たちに人生の生き方の根本を教えました。その根本は、「先祖を敬い親を大切に

国家と社会に奉仕する日本人を育成する」ということでした。考えれば誰でもわかることですが、いかなる人も自分の先祖なしに今はありませんし、社会の恩恵(周囲の力)なくしては今は生きられません。現代の世相は「金さえあれば何でもできる」と錯覚していますが、実際には、大根一本、靴一足、自分で作ることはできません。社会のおかげで自分は生きているのだから、大きくなったら国家・社会に役立つ人間にならなさい、という教えですね。

**本多** 私は日本が武士道精神を取り戻し、世界が必要とする技術を惜しまず与え、国関係において他国から必要不可欠な母なる存在の国となれば軍備はなくとも攻められないと思つていきます。簡単になれることではありませんが、母なる存在の国にふさわしい国民になることが先決ですから、武士道精神を広める努力を日夜いたしております。また憲法九条は地球全体の、つまり地球の連邦憲法でなければならぬし、核爆弾を持つている国こそが必要とする憲法と思つてます。原子力に反対する人たちの多

くが、発電と爆弾をごちゃ混ぜにしているように感じます。私も平和を愛し祈つておりますので戦争や原子爆弾は大反対です。でも原子力発電は我々の生活を豊かにしますから賛成です。そこで原子力の最大のメリットを教えてください。

**菊池** まず、エネルギーとして日本が独立できることです。少し説明しますと、ウランには大きくいうと燃えるウランと燃えないウランの二種類があり、その構成比は前者は前者の約一〇〇倍と云つていいでしょう。ところがこの燃えないウランが原子力発電所の中でプルトニウムに変わることで純燃料となります。別の見方をすると工業上の新たにできた生産物であり、純国産とも言えるのです。プルトニウムは核拡散問題としてよく取り上げられますが、燃料として燃やせば不拡散につなが





るといふ一石二鳥の役割が果たせません。日本の自立を図る場合、エネルギーの自立問題は切り離せません。最近、風力や太陽光が声高に言われておりますが、一億人の国民を維持していくにはとてもまかないきれません。勿論、自然エネルギーを否定するものではありませんが。

**本多** プルトニウムを本格的に燃やす原子炉として福井県敦賀に建設された高速増殖炉「もんじゅ」がありますが、今、どのような状況でしょうか。

**菊池** 我が国は一九六七年動燃事業団が発足し、高速増殖炉開発に着手して以来、実験炉「常陽」に続き原型炉「もんじゅ」の開発・建設を果たしました。しかしながら運転稼働段階での一九九五年十二月、「もんじゅ」はナトリウム漏洩事故を起こし、以来、停止しておりました。本年五月、十四年半振りようやく運転再開に漕ぎ付けることができました。再臨界を果たした後、機器の健全性も含め総点検を実施しますので、本格的な運転開始は来年夏の予定となっております。

**本多** 最近、「プルサーマル」という言葉を新聞紙上でよく見ますが、菊池さんは実質、プルサーマルの名付け親と伺っております。この付近の事情をお聞かせください。

**菊池** 通常の原子炉(軽水炉)の中でプルトニウムが新たに発生し、その一部は原子炉の中で既に燃えております。さらに通常の核燃料以外にウランにプルトニウムを最初からミックスした燃料をMOX燃料と呼びます。ウランは有限の物質であり二次的に発生した新たな燃料のプルトニウムを有効に使うことは極めて有意義です。それにプルトニウムを燃やすことは、余剰なプルトニウムを持たないという意味でも必要なことと考えられております。国内ではMOX燃料の開発は、当時の動燃事業団が担っておりまして。外国では英語名は“plutonium thermal use”ですが、わかりづらいこともあり私たちがその語源からプルサーマルと略して呼んだ記憶があり、それが一般化されてきたようです。

**本多** 三十〜四十年先を見た場合、どうでしょう。それから、米国オバマ政権になってから原子力に対する考えが微妙に変化しているように感じますが背景に何かあるのでしょうか。

**菊池** かねてよりグリーンピースの存在・活動が指摘されておりました。その後ろには巨大な石油メジャーがあるとも言われております。彼らは日本がエネルギーの自立を図ることは反対なのです。それは石油の消費量が減ることに繋がるからです。従って彼らはプルトニウムを恐れるのです。オバマ政権ですが、米国の電気の半分は石炭を燃やすことで成り立っております。太陽光に力を入れていると言っておりますがそれはジェスチャーに過ぎないでしょう。何と言っても石炭業界及びその労働界はオバマ大統領の大きな政治基盤だからです。先程、武田さんから何度もパワーポリテックの話が出ましたが原子力の世界でもやはりパワーが勝負であると思えます。原子力は今、環境問題もあり世界の趨勢になりつつあると言っております。世界に日本の原子力を進めてい



く上では、まず、国内の原子力発電の稼働率を上げなければなりません。現在、平均で60%台ですが、これを90%まで上げなければ海外から相手にされません。発想の転換ですが、たとえば同じ金を出すなら日本がベトナムに原子力発電所を建設し、そのCO<sub>2</sub>の削減分を日本に提供していただく等、鳩山政権下の25%削減論が生きていたとした場合、その具体化を図ることで。勿論、物だけではなく人材育成その他、ソフト面での貢献もすべきでしょう。

**本多** 最後に締めくくりといたしまして、お二方に武士道協会に今後期待することやご意見等ありましたら、お願います。

**武田** まず、「武士道」といわれても漠然として近寄りがたいという人が多いのではないのでしょうか。そこで目標と

して、ある個人の生き様をイメージしてもらおうのも一法かと思えます。

私は真の武士道の体現者として、山岡鉄舟を心から尊敬しております。彼は、明治維新の英雄、西郷南州をして、「名もいらぬ、命もいらぬ、地位もいらぬ、そうした者でなければ天下のことは成し遂げられまじく候」と評させた人物です。彼が開いた谷中の全生庵で『俺の師匠』（小倉鉄樹）他、様々な資料を読み、まさに圧倒される思いでした。若い頃から人情厚く大の負けず嫌い、大酒飲みで大食漢、女にもてて女房泣かせの鉄舟が大悟徹底して人格を完成させるまでのエピソードがとても面白い……。鉄舟の禅は、当大一と言われた滴水禪師をして「あれは別もの」と唸らせ、剣道は浅利又七郎の一刀流を転じて「無刀流」を改組し、書道は弘法大師の「入木道五十三世」を継いだ剣禅書の達人です。維新後は、西郷に渴望され明治天皇の侍従十年。その最後は、勅使、門人、家族等大勢の人が見守る中、沐浴し白衣に着替え、皇居に向かって結跏趺座したまま、静かに息を引き取りました。まさに空前絶後の大人

物でした。

**菊池** 武士道は今の日本人には遠い存在と言えるでしょう。「葉隠」がどうして武士道精神になっていったのかよくわかりませんが、当時の、普通の生活が武士道と言われるようになっていったのではないのでしょうか。それが皆さんから受け入れられ、また馴染みとなっていったのではないのでしょうか。先に武士道を強調するのではなく、生活体験から身につけていった、このことにヒントが隠されていないでしょうか。

**本多** 種々の面から多くのお話を賜り、ありがとうございます。また、当協会に対し貴重なご指摘もいただき厚く御礼を申し上げます。

#### 【菊池三郎氏要歴】

1941年生まれ。1965年京都大学工学部原子核工学科卒。旧勸業でフルトニウム燃料の研究開発・設計業務に従事。企画部長、もんじゅ建設所長、同理事を歴任。現財原子力研究バックエンド推進センター理事。京都大学工学部客員教授及びび京工業大学特任教授を兼任。

#### 【武田能行氏要歴】

1947年生まれ。1969年防衛大卒（第13期）。陸上自衛隊福知山第7普通科連隊長、第5師団副師団長、警務隊長、小平中学校長等を歴任。陸将補（旧少将）で退官。

# 医療と武士道

武士道協会理事

にし おおた 西大條

ぶんいち 文一



武士道とは何かなどと改めて考えたことのない小生が、協会のお手伝いをする事となった。かいつまんで小生の小史を述べてさせて頂いた

く。武道らしきものに触れた始まりは、東北大学での弓道の授業であった。昭和初期にドイツからオイゲン・ヘリゲル夫妻が旧制二高に教授として招かれた際、弓道を修め、帰国後『弓術の騎士道』を著されたことから、授業中にもよくその話を聞かされた。暗闇で老師が矢を射ると、的にささった矢を二本目の矢が射抜いていた話が一番印象に残っている。

中学、高校とカトリックの学校だったため、体育ではラグビーしか許されておらず、いわゆる柔道などの授業はなかった。しかしその一方、当時の教頭先生が漢文の大家で、孟子、十八史略、史記等を白文で読まされた。今でも孟子の、赤ん坊が這い這いして、井戸に落ちそうになつてハツとする、その臨場感にみちた描写は白文の素読であったにもかかわらず鮮明に蘇ってくる。儒教の素養はしかし、そのへんで止まっている。

大学を卒業する頃、世の中に突然、エイズと

## プロフィール

1960年兵庫県生まれ。1986年東北大学医学部卒業。1995年北新宿同仁寮メデイカルクリニックを開業する。1995年チューリッヒ・ミューンヘンオペラ座、日本舞踏協会主催新春舞踏大会等、多数の国際会議、フェスティバルに参加、舞踏・上方舞の普及、後進の育成にも努めている。現在、同仁寮クリニック院長、イタリア大使館嘱託医、ギリシャ・ローマ美術館理事の要職を務める。

いう病気が現れた。大学在学中から、細菌学教室に出入りしていたが、何かこの新種のウイルスは、ウイルス自身が、あたかも我々が学んだ免疫学の最新の知識を勉強して武装したかのような奇妙なものであった。

イタリア留学から戻ったとき、恩師からの勧めもあつて免疫学的検査を中心にした感染症の医院を開業することにした。一九九五年のことである。今思うと、徒手空拳、蛮勇以外のなにものでもないが、ともかく検査結果をはやく被検者に返すことに比重を置いた。その当時、保健所では二週間くらい結果を教えず、被検者に恐怖を与える施策をとっていた。これは実際に当時の保健所の担当医から聞いた話なのだが、吃驚するとともに疑問を感じた。なぜなら、血液の情報は患者さん本人のものだからである。

開業時から(まだ個人情報保護という言葉もない時期)、全ての患者さんをインシヤルとID番号でお呼びするシステムを確立した。二年ほどして、一時間半ほどで結果が分かるエイズの抗体検査が開発され、日本で初めてその日のうちに検査結果をお返しできるようになった。それまでは最短でも、四日(いわゆる、なか二日)かかっ

ていたのである。その後、十五分で結果が分かるキットが発売され、いち早く取り入れた。クロマト法という、今では一般外来でのインフルエンザ検査にも使われる迅速検査であるが、擬陽性や、検査前後のカウンセリング等の問題も少なくなかった。厚生労働省の研究班の班長の先生が小生のささやかな医院を訪ねて来られ、その先進性と先見性に驚愕され、ご一緒に研究を始め、啓発を続けてきた。

いまでは全国の保健所、医療機関で、種々の即日検査を受けられるようになったが、振り返ればちょうど十年かかったことになる。救恤の精神は、意外と中学校の孟子の授業に由来するのかも知れない。

## 「新理事の紹介」

新たにご就任いただきました理事の皆様をご紹介します

〈副理事長〉 山谷えり子

〈常務理事〉 尾賀康裕

〈理事〉 宇都隆史

川端五兵衛

影山幸雄

菊池三郎

草原克豪

西大條文一

村上和雄 (五十音順・敬称略)

## 「協会認定特別協賛委員の紹介」

2010.6月、11月認定

〔埼玉県〕 桑名尊士

〔神奈川県〕 清野乙彦

〔愛知県〕 加藤洋一

玉置優子

〔兵庫県〕 大野雅仁

(都道府県順・五十音順 敬称略)

## 特別寄稿

# マーケティングの中に 生きる武士道

株式会社マーケティング・トルネード

代表取締役

佐藤昌弘



二〇一一年より武士道協会会で広報を担当することにしました。仕事はマーケティングの専門家で、「企業の集客や業績向上に関する社外の仕掛け人」と言いかえることが理解いただきやすいかも知れません。

「マーケティングの中に生きる武士道」ということで寄稿を依頼された時、それは、私ならではのテーマだと思い、お引き受けしました。そこで、今回は「武士道を世に広める」ことを仕掛ける専門家として、皆さんが広めたいと思っていることを上手に伝える「ヒント」をお話ししたいと思います。

なんでもそうですが、教えが広まるという場合、「広めたい側」と、「知りたい側」に分かれます。そして、この両者の想いは、すれ違うことが多いのです。だからこそ、両者の想いを、うまく噛み合わせることで広まりが加速するということがあります。

例えば、ある村落に、「流れの早い川に近づいてはならない」という教えを子供に広めたいと願う大人たちがいたとします。大人が

伝えたいのは、「川の危険性について」です。しかし子供たちは関心がありません。つまり、まらない説教話だからです。

こうしたすれ違いも、「民話」をつくることで、お互いの想いが噛み合い始めます。「川には恐ろしい河童がおつてな、それはそれは…」と物語形式にすることで、子供は聞きたがる。大人は、川の恐ろしさを伝えることに成功していきます。

ビジネスでも似たことが起きます。例えば、空手教室であっても、

「空手道において本当に伝えたいのは、その精神性であって……」

本当に残念ですが、現実には、生徒は集まりません。

「10秒で何枚割れるか? 瓦を割って、スツキリ爽快!」というイベントをやると、たくさん生徒が集まります。そうやって集めた顧客に対して、「瓦を割るコツはね、一点を見極めること。そのためには集中することが必要で、呼吸を整えて、落ち着くと……」と、自然に精神性について教えを広めることも出来ます。

「火事場で遊ぶ子供を救うには、叱りつけるよりも、他のおもちやで誘うのが良い」と言われるように、本当に手を差し伸べたいのなら、方便が大事な時もあるのです。

このように、マーケティングの中にも武

士道は生きているのです。もちろん、武士道を広めようとする場合、お会いする一人ひとりの方に、コツコツとお話ししていく地道な活動は欠かせません。私自身、お会いする方に地道に声かけをしています。

しかしながら、それだけではスピードが足りません。興味のない人をも「へえ〜」「何?なんで?」と振り向かせる工夫が必要です。その不足部分をこれから私が仕掛けていきます。

「武士道を普及させるために、私個人として、マーケティングの専門家として、経営者として、法人として、直接的に、間接的に、実行できることは何か?」

それを徹底して考え、粋に進めていきますので、楽しみに武士道協会のこれからの動きを見ていってください。一生懸命武士道協会の広報に取り組みますので、今後ともよろしくご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

### ●プロフィール

1968年、愛知県生まれ。大学の土木工学科を卒業後、都市ガス会社入社。技術系部署に3年、関連会社の支援・設立を行う部署に1年在籍した後、98年12月に退職。リフォーム事業で起業。3年弱で年商3億2000万円にまで伸ばすが、01年5月に事業を売却し、コンサルティング会社株式会社マーケティングトルネード設立、代表取締役。著書に「凡人が最強営業マンに変わる魔法のセールストーク」などがある。



## 特別協賛委員の皆様からのご提言 現代社会に武士道を生かすためには

●兵庫県 藤原孝弘

子曰く、

学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。

朋あり、遠方より来る、亦た樂しからずや。

人知らずして愠みず、亦た君子ならずや。

学問を学んで、時おり復習するのは、なんとも心うれしいことである。親しい友達がいて、わざわざ遠くから訪ねて来てくれるのは、なんとも楽しいことである。自分がすっかりしていれば、他人が理解してくれなくても、わたしは一向に気にしない。これが君子というものではないだろうか。

『論語』の冒頭を飾る不朽の名句であり、学問と朋友が、かけがえない大切なものであることを高らかに謳っているのである。

僕は田舎の農家に生まれて幼い頃より祖食ではあるが、食べることに不自由したことはありませんでした。それゆえ天変地異が起こるか、病氣・事故などで自分の健康が害されない限り、地道に働いていれば食べ物には困らず生きていけるという考えがいつとはなく自然に心の中に染みついたのでしよう。幼い頃の農作業は殆ど手作業、農繁期となれば家族

みんなで作業をしていました。赤ん坊の頃は縁側で一人寝かされ、目が覚めても誰も相手をしてくれず空を見上げていたことを思い出します。泣いても誰も来てくれませんが、じつと家族の帰りを待つことしかできませんでした。振り返ればこの頃に我慢すること、辛抱することを家庭環境の中で学んだのでしよう。

孔子語録である『論語』、中国から三世紀に、「千字文」とともに日本へもたらされて以来、日本の士大夫は熟読して学んできた。聖徳太子は十七条憲法に採り入れ、「和を以つて貴しとなす」と第一条に宣言した。二千五百年前の中国に現れた一介の夫子の言行が現代にも生きつづけている。これは、日本文明の礎と呼んでもいいのではないかと考えます。

子曰く、故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし。

孔子が言われた。人の師となるには、古いことをよく調べた上で、さらに新しい知識や見解も得ていなくてはならない。

古来、人の師となるのは難しく、人格もさることながら、経験や知識が十分に身につけていないと、生徒を指導できない。昔からの伝統には優れたものが多いが、新しい時代の変化も吸収していく、変化に対する対応も身につけていかななくては、よき師とはいえないであろう。

『論語』は処世訓である。二つの解釈を読んで思

うに、学ぶとは学問を学ぶ事だけなのか？温故知新とは人の師となるための教訓なのか？と問いかける。人それぞれの経験は違うのだから、解釈・見解も違ってくるのは当たり前？僕は、「学びて時にこれを習う」人に学び、書物に学び、自然に学び、今の時代に習う（時代に照らし合わせ推考する）、「故きを温ねて新しきを知る」先人の意見を参考にし現在・未来のことを考え歩いていく——と解釈しています。

神道・儒学・仏教・政治・道徳の観点から武士道とは何かを考えたとき、「戈を止める侍の道」「一つの道に志す者」「剣を究めることで悟りを啓く道」「なりされる・やりされる・すてされる者の道」「私利私欲に左右されず行動ができ、学問・道徳の教えを身につけ素直に生きられる者の道」と理解しています。故の社会における武士階級とは現代社会における政治家であり官僚ではないでしょうか？すなわち、武士道とは、国を運営する組織に携わる人々の規範だと思えます。しかし、政治家・官僚が武士道精神を継承しているとは言いがたい。権力を振りかざし、弱い者には強く、権力者には媚びへつらうようでは秩序のない国となっていくでしょう。

武士道のとらえ方は色々あるが、武士道協会が目指すところは真に世界に誇れる社会を築き上げていくことを目的としている。武士道を生かすには、武士道精神を伝承していくには、子供たちに、「まごころ」「思いやり」というものを理解し、自覚できるように教育をすることだと考えます。それには、指導者の養成をし、身近な会場を確保し、家族の理解を得て、子供たちに教えていくことだと思えます。



特に、自然の中で生きる人間としての心の持ち方(道心)・道徳を教えるべきだと考えます。これが、人格の基礎となり武士道を生かして世界に誇れる社会を築き上げていく一歩ではないかと思えます。

子曰く、  
学びて思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。

孔子が言われた。学問を学んでも、自分で考えることをしなければ、真理に近づくことはできない。その反対に考えても学ばなければ、独善に陥ってしまうって危険である。

知識は必要であるが、本当に必要なのは知恵である。知識を知恵に高めるためには、考えることである。しかし考えても、考えるばかりで学問をしなければ、独善に陥って危険である。学んで知識を得ると同時に、思索する、そのフィードバックが真理に近づく本当の道である。

### 愛知県 玉置優子

武士道協会と出会ったことを本当に良かったと思っています。

それは、武士道協会で学ぶにつれ、自分のことを好きになり、失敗しても立ち直りが早くなり、少しずつですが自信を持つようになったからです。

子供の手本になること、歴史を学ぶことの大切さ、働くことの意味、親の有り難さ、主人が家庭を守ってくれていることなど、すべてのことに自分はどうもありがとうを求めています。当然、相手してもらいたいと思っ

ているので、上手いかなんかが多く、どうしてわかってくれないのだから不満に思っただけでした。それが、武士道協会でお話を聞いて、どうしたら上手くいくのかが分かりました。ただ、頭の中でわかるのに心や行動にいかないので、とても大変です。自分の内面を磨くということは自分と向き合い、自分を甘やかさないことなので、とても難しいです。今まではそれを相手に要求して不満が溜まっていたのかと思うと、気付いたことは幸運なことだと思います。

どんな小さなことにも感謝するとこ

社会はとても複雑だと思いました。

この乾いた社会に、肥料となり、水となれるのが武士道精神だと思います。社会を良くしたいと思ったら、まずは自らを良くすることだという教えは衝撃でした。私は自分のことを人に優しい人間だと思っていました。見返りを期待した偽りの優しさと思付き、それは相手にとっても失礼なことだと知り、初めて自分を大事にしようと思えるようになりました。武士道協会との出会いがあったからこそ、ここまで自分のことを深く考えることができたのです。

一人ひとりが幸せになれば、家族、会社、地域、と大きく広がっていくそうです。私は自分のことを好きになつてから、周りの人のことも良くしたいと思うようになり、それが本当の優しさだと体験から確信しました。

武士道協会には幸せを広げる力があると確信を持って言えるようになりました。

これからも武士道精神を学び、実践して、自分を大切に、他の人も大切にできるよう精進したいと思っています。そして、そんな自分を見てもらうことで、武士道のことをもっと身近なものとして知ってもらいたいと思っています。

## 自費出版のおすすめ

貴方の伝えたい想い、残したい言葉をカチにしませんか？  
自分史・体験記・随筆・記念誌・論文など……



編集・制作会社のPHPエディターズ・グループがお手伝いいたします  
詳しい内容・お問い合わせは下記まで。

東京本部：TEL 03-3237-0651 FAX 03-3237-0652

京都本部：TEL 075-662-1319 FAX 075-662-1348

<http://www.peg.co.jp>

## 現代語訳で知る 『尊徳』と並ぶ武士道本の名著 「いかに死ぬべきか、そのためにはいかに生きるべきか」 を追求した、江戸前期の兵法家・大道寺友山の代表作『武道初心集』を現代語訳と原文で紹介。 「主君への忠信、父母への孝行」「儉約の大切さ」「死に臨む際のしきたり」などの武士の心構えは、我々が実践すべき生き方へと通じる。

大道寺友山…著  
大道寺弘義…監修



定価：1,575円(税込)

教育評論社

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 2-5  
TEL: 03-3664-5851 <http://www.kyohyo.co.jp/> [送料 525 円]

## 人間力向上セミナー

平成22年10月31日(日)、人間力向上セミナーを東京で開催しました。

参加者は20代～70代まで総勢33名。若い方の参加がとて目立ちました。レ・ベル・フルールによるヴァイオリンとピアノの生演奏から始まった人間力向上セミナー。泌尿器科医師用の医術の著書に「心」を取り入れた、埼玉県立がんセンター泌尿器科部長の影山幸雄先生から、「目で見て耳で聴いて楽しむことが五感を刺激する」とお話をいただき、「なぜクラシック生演奏が先に入っていたのかよくわかった」と参加の皆様から喜びの声もいただきました。

影山先生の講演は心を打つ内容で、病気との付き合い方、お医者様との付き合い方にまでおよび、得るものが多くありました。影山先生は「人の命を考えたとき、ただ生きていることが尊いのではなく、逃げずに賢く対応することが大切である」「生きるだけを目的にするのではなく、どのように生きるかを考える。五感を楽しませて時間を大切にすることで、不満を満足に変えることができる」と説かれました。

その後、会場の参加者の質疑応答を入れながら影山先生と本多百代常務理事とのトーク、そして、6名～7名の小グループによるブレインストーミングへと移り、会場は和気あいあいながらも熱気が充満しました。本多常務理事から、「幸せとは何か大きなものがドサッと降ってくるようなものではなく、日常起きている当たり前のことである小さな点をつなぎ合わせたようなもの。その小さな点を感じて感謝をする力がなければ幸せを感じるができない」と話がありました。それに会場からは、「和を尊ぶ気持ちが大切で、それは孝行だと思う」という発言があり、当たり前のことを当たり前とせず感謝する気持ちが武士道であるという答えも導き出されました。



グループ代表の発表



影山幸雄先生



グループ討議

## さむらい塾

平成22年10月23日(土)、第1回さむらいすくーが名古屋で開催されました。子供は年齢が5歳～15歳と幅広く、大人も交えて11名が参加しました。中日新聞山口新聞販売店からいただいた新聞紙で剣をつくり、チャンバラごっこ。どうも親の方が真剣になっていたような……。

ルールがなぜあるのか、ルールをなぜ守らなければならないのか、友達を作るにはどうしたらよいか？ 育児のアドバイスもあり、大人も子どももそれなりに収穫を得てお開きに。

参加後の感想は「友達ができずにずっと待っている子がいる、今日のことを教えてあげればよかった」「親孝行する」などでした。親御さんも「うちの子が一番良い親孝行をしてくれていることが分かったから、これからはもっと子供を褒めて、ルールで縛らないようにしたい」などなど。

会場を提供してくださったスタジオパーク四谷の太田真理代表も、これからの日本に武士道が必要とおっしゃってください、ますます意欲につながりました。ありがとうございました。



### 【投稿募集】あなたの武士道に関するご意見を事務局までお寄せください。

- 字数：250字程度
- 住所・氏名(ふりがな)・年齢・職業・電話番号を明記(匿名希望の場合は、その旨も明記)
- あて先 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11 PHP研究所内 武士道協会事務局 読者投稿係
- FAX、電子メールでの応募も受け付けます。なお、原稿はご返却できません。また、内容を損なわない範囲で修正させていただきます場合もありますので、ご了承ください。

※個人情報厳重に管理し、必要に応じた利用以外には使用いたしません。



# 武士道

## 憲章

- 一、武士道は 志を尊ぶ [立志]
- 二、武士道は 心の清明を希求する [清明]
- 三、武士道は 公正にして信義を守る [正義]
- 四、武士道は 自己陶冶に精励する [修養]
- 五、武士道は 忠誠心を堅持する [忠誠]
- 六、武士道は 剛直をもって旨とする [剛勇]
- 七、武士道は 惻隱の情を心に蔵する [仁愛]
- 八、武士道は 礼節を重んじ、恥を知る [廉恥]
- 九、武士道は 時の流れを超越する [超越]
- 十、武士道は 天地自然の理法と共に生きる [自然]

### (子供武士道憲章)

- 一、ぶしどうは、しんねんともくひょうをもっていきることをたいせつにします (\*信念——正しいと思う自分の考え)
- 二、ぶしどうは、あかるくきよらかな ころでいきることをつよくねがいます
- 三、ぶしどうは、だれにたいしてもわけへだてなく、まごころをもってやくそくをまもります
- 四、ぶしどうは、じぶんをきたえ、おやこうこうをして、いっしょうけんめい べんきょうにはげみます
- 五、ぶしどうは、しょうじきな ころで、ぎむとせきにんをはたします
- 六、ぶしどうは、だれもしていない ことでも、よいことならばじぶん ひとりでもします
- 七、ぶしどうは、ほかの ひとの かなしみはじぶんの ことのようにかなしみ、ほかの ひとの よころびはじぶんの ことのようによこびます
- 八、ぶしどうは、れいぎをまもり、せつどをもってせつし、はずかしい おこないはしません
- 九、ぶしどうは、わたしたちにんげんが、ときの ながれの なかで いきているということをじかくし、にほんの くにとれきをたいせつにします (\*自覚=自分の置かれている位置や状態をはっきりと知ること)
- 十、ぶしどうは、しぜんによっていかされている ことをわきまえて、しぜんをたいせつにまもります

## 特別協賛委員制度

広く武士道精神を伝えていくために、協会の会員で、一定以上の継続研鑽—協会認定講座に参加(もしくはそのDVD視聴)—を重ねていることが認められる方を、「特別協賛委員」として認定いたします。

認定された方には、認定書、協会講演DVD2枚並びに協会ロゴ入り名刺の台紙を送付し、当協会ホームページ「特別協賛委員一覧」、会報誌「武士道」にて公表させていただきます。

詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい。資料をお届けいたします。



## 編集後記

西郷隆盛の不朽の名言に、「命もいらす、名もいらす、官位も金もいらぬ人は、始末に困るもの也。この始末に困る人ならば、艱難を共にして、国家の大業は成し得られぬ也」がある。

また、少し意味は違うが、松下幸之助はこのようにも言われている。「欲それ自体は悪ではない。欲の正しい使い方を知り、必要以上の欲は慎むことを忘れてはいけない…… 勤勉努力によってこれを儲け、他人にサービスを与えることによって正当に得るようにつとめる。人も喜び自分も喜び…… 自らの分限を正しく知ることが大切」と。政治と力ネの問題をはじめ、自分本位が横行する日本。いま、リーダーの方はもとより、日本人全員が、真剣に耳を傾けねばならない言葉ではないかと思う。

## 武士道協会事務局

〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11 株式会社PHP研究所内  
TEL(075)681-5514 FAX(075)682-3565  
URL: <http://www.bushido.or.jp/> E-mail: [info@bushido.or.jp](mailto:info@bushido.or.jp)

## 特定非営利活動法人 武士道協会

● 武士道第6号  
● 平成22年12月発行